

	<p style="text-align: center;">レポート</p> <h2 style="text-align: center;">日本の長所：起源と伝承方法</h2> <p style="text-align: center;">(その2) 長所の起源 松村 眞</p>	<p>発行日 2018.1.21</p>
---	---	--------------------------

2. 長所の起源

長所の起源については、多くの資料を参考に表 2 に示す 7 件を想定し、それぞれの起源が日本の長所に結びつくシナリオを推測した。その結果、主に①～⑤の起源から、ほとんどの長所が導き出せることがわかった。起源と推測のシナリオは筆者の独断なので異論もあるだろう。それにすべての長所に結びつくシナリオを推測できたわけではない。起源の想定が不足なのか、長所に結びつくシナリオの推測が不十分なのかもしれない。しかし結論の判断に大きな影響はないであろう。

表 2. 長所の起源

番号	長所の起源	起源の影響
①	自然環境	気象と季節変化による豊富な植生と自然美、自然災害
②	稲作農業	共同体中心の社会形成、組織規範の発達
③	3 宗教	儒教の道徳理念、神道の自然崇拜、仏教の極楽浄土思想
④	江戸時代の文化	江戸時代の町人文化による文芸、美術、工芸の発展
⑤	市場経済の発達	消費財の品質と安全性、およびサービス業の品質向上
⑥	島国	限定的な海外からの異民族や文化の流入
⑦	天皇制	権力の上位に位置する普遍的な権威の存在

2.1 自然環境

日本の自然環境の特徴は、地勢的に南北に長いこと、季節的な気象の変化が大きいこと、降水量が多いこと、自然災害が多いことの 4 点である。南北に長く季節的な温度変化が大きいことから、多様な植生に恵まれ、豊富な食材を入手できる。食料が豊富なのは降水量が多いからで、面積あたりの収量が多い水田稲作を可能にしたのも多雨の恩恵である。植生が豊富で季節変化が大きいから、広葉樹は新緑の緑から秋の紅葉まで変化し、四季折々の花が咲いて美しい景観を提供している。日本に生まれ日本で育つ日本人にとっては当然のことなのだが、植生の乏しい外国から来た人は大いに感激するのである。

自然に恵まれている、食料が豊富、食材の多様性に恵まれている、色彩が豊か、

食べ物が美味しい、食事の選択肢が多いという長所は、この起源から十分に説明できるであろう。だが、それだけではない。自然の美を居住環境に取り込もうとして日本庭園や日本画が発達し、美術水準の向上にも寄与している。自然を愛している、自然との共生意識が強いという長所も、同じ起源で説明できる。自然の美に恵まれているから、その美を損ないたくないという意識が生まれ、清潔意識が高い、街や道路が清潔という長所にも結びついている。

長所とされている緊急時の冷静さ、優れた緊急対応、高い自己犠牲の精神は、自然環境のネガティブな側面に起因している。日本は台風の通り道だから、昔から季節的に強風と集中豪雨が発生し、洪水で田畑が被害を受けてきた。地震も多かったから、建造物の損壊や土砂崩れも頻発していた。このような定期的な自然災害は、外国には見られない特徴である。自然災害の発生自体は防げないから、必然的に冷静な緊急対応能力が定着したのである。被害の拡大を防ぐにも、損なわれた農業基盤を再建するにも、自己犠牲をとまなう多くの努力が必要だったであろう。

2.2 稲作農業

稲作農業が日本の長所に及ぼした影響は、共同体を重視する価値観の普及である。集団の利益を個人の利益よりも優先させる考え方で、個人主義と対局にある集団主義といってもよいであろう。日本は多様な植生に恵まれているが、主食とする穀類の選択肢は乏しかった。北海道以外は麦やトウモロコシの生育環境が適合せず、稲作だけが本州の主食に適した穀物だったのである。それに水田稲作は、面積当たりの収量が他の穀類より圧倒的に多い。このため、山間地が多く平地に恵まれない日本には最適だった。

一方、稲作農業は麦やトウモロコシに比べると、地域集団の協力が必要な場面が多い。換言すれば自己完結性が低い特徴がある。水田だから地域ごと、水田ごとの用水供給と管理が重要で、そのためには地域全体での協力と綿密な調整が欠かせない。同じ稲作でも、灌漑の依存度が低いタイやベトナムとは大きく異なっているのである。また田植えと刈り取りには労働力の集中投入が必要だから、地域の支援や協力が不可欠だった。今では農業機械が発達して農作業の生産性が上がり、自己完結性が高くなっている。しかし機械化以前の稲作は完全な労働集約型だったから、労働力を融通する緊密な地域協力体制が必須要件だった。

稲作の生産性を高めつつ緊密な協力体制を維持するには、二つの側面からこの目的に適した地域社会を形成する必要がある。一つは稲作の生産性からの要求で、必要な作業を地域全体で共有し、公平に分担する組織管理機能である。このために組織規範が発達し、共同体重視の合意形成が生まれたのであろう。日本人の社会性に関する長所の多くが、この観点で形成されたと私は推測している。具体的には順

法精神が強い、公共道徳心が高い、秩序維持意識が高い、協調性に優れている、公益を重視する、共同体帰属意識が強いなどである。一方、協調性と公平負担の原則から、非協力的な農家に対する制裁も必要だった。いわゆる「村八分」で、10種類のイベント（結婚、出産、建築、旅行、冠（成人式）、病気、火事、水害、葬式、年忌（法要））のうち、火事と葬式以外は仲間に入れなかったのである。

もう一つの側面は、共同体に属する構成員に安心感と信頼感を与える環境である。各構成員が相互に尊重し、公平に苦楽を分かち合い、自主的に組織に貢献するには、一体感が必要になるだろう。そのためには、全員に組織構成員としての素養が求められる。日本人の素養に関する多くの長所は、この観点で形成されたものと推察している。具体的には次のような長所が該当するであろう。親切、人の物を盗まない、努力の継続性が高い、礼儀正しい、他人に迷惑をかけない、誇り高い、経済自立心が強い、勤勉、義理に厚い、謙遜、温和、優しい、尊厳、従順（序列重視）、宿命的な役割意識、道徳的義務感、年長者への敬意、周囲の評価を配慮、マナーに優れる、気配りができるなどである。

学校教育の長所の多くも、共同体の構成員としての行動規範を習得する役割が起源になっている。具体的には次の長所が該当するであろう。ルールを守る教育がされている、道徳教育がある、運動会などで協調性と団結心が教えられている、わがままや暴力抑制など（躰）教育が行われている、給食の全生徒参加方式、家庭科があり日常生活のスキルを教えているなどである。なお外国の学校給食で、生徒が当番制で配膳や後片付けまでする国はない。

公共環境、社会状況、組織機能の長所も、大半が共同体の規範向上が起源と考えられる。具体的には下記の長所が該当するであろう。秩序正しい、安全性が高い、浮浪者がいない、落し物は置いてあるか届けられる、他人からの無礼や暴力行為が少ない、老人が自主的に街を清掃、老人が自主的に街をパトロール、社会が安定、公共秩序の水準が高い、訴訟が少ない、他人に対する敬意が普遍化、合意形成を重視、組織行動能力が高い、共同体帰属意識が強い、均質性が高い、公共秩序関連法規が高水準などである。

2.3 3 宗教（儒教、神道、仏教）

3 宗教が日本の長所に及ぼした影響は、親孝行や名誉の重視に具体化されたものと推察している。中でも儒教による道徳規範の教えは、多大な影響をもたらした。儒教は五常（仁、義、礼、智、信）の徳性で、五倫（父子、君臣、夫婦、長幼、朋友）の関係を正しく保つ教えである。影響が大きかったのは、四書五経と呼ばれる教典の完成度が高く、表現が優れていて指導層の教育に適していたからであろう。日本でも主に江戸時代から武士の教育に採用され、重要な教えは多くの藩校で暗

記を求められていた。経典の一部は、低学年を対象とする寺子屋でも教えられていた。今は学校で儒教を教えることはないが、接する機会が多い格言には有意義な示唆が込められている。このため学校で学ばなくても、読書やマスメディアを通じて人々の記憶に入り込んでいる。本レポートの読者も、「過ぎたるは及ばざるが如し」、「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」、「義を見てせざるは勇無きなり」など、いくつかの格言をご存じであろう。

儒教が行動規範を示しているのに対して、神道は自然に神が宿るとし、自然を怖れ、自然を敬い、自然に対して謙虚であれと教えている。具体的な行動規範よりも、自然に対する基本姿勢を示しているのである。結果として非常時における冷静さや秩序維持、および忍耐力の起源にもなっている。仏教は死後の極楽浄土を前提に、生前に「徳」を積むことを求めている。儒教、神道、仏教は理念と道徳律、および行動規範に共通部分があるので、3宗教を区別せずに次のような長所の起源と考えている。親を介護施設に入れたがらない（親孝行）、名誉（社会的な地位）を重視する、恥の罪悪感が強い、品格が高い（道義心が高く不心得者が少ない）。なおキリスト教とイスラム教は厳格な一神教なので、日本に伝来する前から広く普及していた多神教の神道と馴染まない。このため日本の長所への影響は小さく、具体的な長所に結びつくシナリオは推測できなかった。

2.4 江戸時代の文化

日本は江戸時代になると平和が続き、戦乱による人材と資源の消耗がなくなった。また農地の拡大と生産性の向上で、生存目的以外にも資本を投入できるようになった。その資本は支配層である武士階級ではなく、主に商人と町民に蓄積された。その結果、広範囲に文化が育ち発展した。文学では新井白石や渡辺崋山など著名な作家が輩出し、浮世絵では葛飾北斎に代表される画家が世界的に高く評価される名画を残した。歌舞伎や芸能も発展し、陶器や工芸の分野でも優れた作品が生まれた。医学や科学も発展し、杉田玄白や平賀源内が優れた業績を残した。重要なことは資本が商人や町民に蓄積された結果、農業以外の分野で多様な専門的職業が発達したことにある。

この時代、中国と韓国は中央集権体制で、科挙で選ばれた官吏が地方行政を担っていた。彼らは皇帝の代理として全権を委ねられていたから、任期中に多くの私利を得ようと地域住民の余剰資本を限りなく収奪していた。このため農業関連以外の専門的な職業が生まれず、文化の発展が阻害され、芸能や工芸品が発展しなかったものと私は推測している。江戸時代の町人文化が起源となった日本の長所は、主に文学と美術、それに工芸の分野である。具体的には美術の水準が高い、文学の思想が豊富、工芸品の品質が高い、芸術が発達、よい文化と伝統が保持されている、古い建築物が美しいなどの長所に具体化されたのである。

2.5 市場経済の発達

外国人が指摘する日本の長所には、製造業に関連する信頼性や安全性と、サービス業に関連する接客マナーや清潔感が多い。日本に来ればすぐに気がつく自国と比べた長所だからであろう。だが、これらの長所は古くからの伝統的な長所ではない。私が 20 代の頃は、行政機関や銀行は 12 時になると窓口を閉め、13 時まで平気で客を待たせていた。このため勤め人は銀行を利用するのが困難で、私は給料を貯金せずに机の引き出しに入れっぱなしにしていた。交通機関の職員や警察官の態度は横柄で、飲食店の衛生水準は低く、床の隅では往々にしてゴキブリが走っていた。当時の就業人口は農業と製造業が 7 割以上で、サービス業の従事者は現在より少なく、ビジネス意識も低かったといえよう。

サービス業の接客姿勢が改善されたのは、農業と製造業の生産性が向上し、就業人口がサービス業に移動したからである。その結果、サービス業の競争が激しくなり、設備水準も接客姿勢も重視されるようになった。現在はコンビニやファーストフード店に接客マニュアルが常備され、接客マナーの評価が従業員の処遇にも反映されるようになってきている。製造業も市場経済が発展し、信頼性や安全性に問題があると生き残れなくなった。このように市場経済の発達が、製造業とサービス業の水準を高める起源になっていると推察している。具体的には下記の長所が該当するであろう。

製造業関連：

消費財の品質が高い、管理者の責任感が強い、工場の品質管理水準が高い（徹底した生産管理）、市販の弁当や総菜が美味しい、製造食品の安全性が高い（数段階の確認過程）、商品が豊富など。

サービス業関連：コンビニのサービス範囲が広い、(利便性大)、コンビニ店員が礼儀正しい、接客マナーの水準が高い（小売、サービス）、レジ店員がていねい、食べ物（外食）が安くて美味しい、食品の衛生管理（保存、調理）水準が高い、トイレがきれいで無料、店舗の衛生水準が高い、食べ物が安全、サービス業の営業時間が長い（利便性が高い）、公共交通施設と乗り物が清潔、公共スタッフ（警察官、案内、清掃）の対応がていねい、公共スタッフが顧客を尊重する、交通機関の発着時間が正確など。

2.6 島国と天皇制

島国は異民族や異文化の流入を阻害するから、独自性の高い文化や価値観を育てる側面がある。日本語はその一つで、表意文字の漢字と表音文字の「かな文字」を組み合わせ、美しくて効率のよい独自の言語体系を生み出した。日本語が美しい

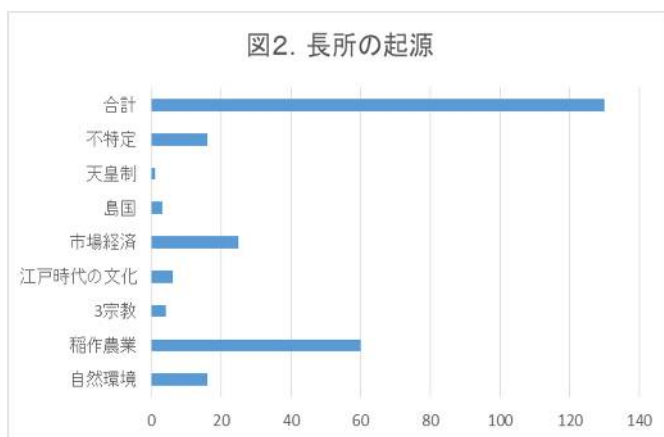
という評価は活字では実感しにくいですが、筆と墨を使って書かれた日本語が美しいことに異論はないであろう。日本語がていねい、日本語が美しい、悪口が少ないという長所は、島国に起因していると私は考えている。

なおイギリスも島国だが、ヨーロッパ大陸との距離が非常に近かったから、宗教や文化の交流が盛んだった。フィリピンやインドネシアも島国だが、日本に比べれば近隣の島や大陸との距離が近く、海況は安定している。このため、小さな船で容易に民族と文化が交流していた。千年を超える長期にわたって、同一民族が孤立した環境で発展した国は、日本以外にないと私は考えている。

神道も島国の日本で自然発生し、独自に発展して広く普及した。このため、自然を恐れ、自然を敬い、自然の前に謙虚であれとする日本人の特性は、神道を起源と考える意見があるだろう。しかし神道自体が、自然災害の多い日本の環境で発生したことを考慮すると、謙虚さの起源は島国や神道ではなく、日本の自然環境そのものにあると私は考えている。天皇制についても長所の起源とする意見があるが、外国との戦時における全国統一集団意識の形成以外に、具体的な長所に結びつくシナリオを想定できなかった。

2.7 長所の起源のまとめ

表 1 に示した 130 件の長所の起源を図 2 に示す。自然環境が 16 件、稲作農業から発達した共同体が 60 件、3 宗教が 4 件、江戸時代の町人文化が 6 件、市場経済が 25 件、島国が 3 件である。残る 16 件は起源を推測できなかったが、重要な長所とは考えていない。図 2 から読み取れるように、稲作農業



を起源とする長所が過半数を占め、日本の特徴が共同体主義にあることが明確になった。現在は農業の就業人口が 1 割に満たないことから、共同体主義は低下していると思われるかもしれない。しかし共同体主義は大量生産型の工業社会にも継承された。大量生産型の工業では、共同体指向が生産性の向上に適していたからである。稲作農業起源に続いて多いのは市場経済起源の長所で、過去からの伝承ではなく成熟した社会の成果である。次に多いのは自然環境起源の長所で、今後も非人為的に継承されるであろう。次節では長所の継承方法と持続性について述べる。

(その 3) に続く